

【取材調整可能・有識者(大学教員)のご紹介】

食の安全と安定供給を支える流通の力

続く断水 能登半島地震で牛が悲鳴？ 水なき畜産業の危機

流通のプロが災害時の流通における苦悩と復興について解説します

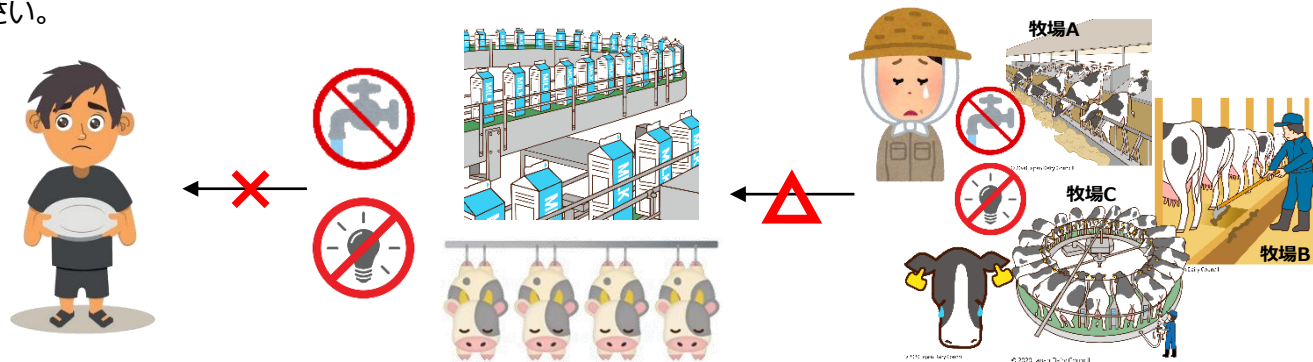
摂南大学 農学部 食農ビジネス学科 戴 容秦思 (だい ようしんし) 講師

摂南大学(大阪府寝屋川市、学長:久保康之)では、9学部17学科にわたる専門分野を持つ教員への取材を受け付けております。今回は**摂南大学農学部食農ビジネス学科の戴容秦思講師**を紹介します。

2024年1月1日、日本を襲った能登半島地震。復旧の目途が立たない断水は、避難所の生活環境の悪化を招いています。人間への影響はもちろんのこと、畜産動物にも影響があることをご存じでしょうか？

例えば牛の場合、1日30リットル以上水を必要とするため、断水により水が飲めない牛は体調を崩し、「乳の出が悪くなる」「牛がどんどん痩せていく」など、深刻な問題になっています。また、肉畜の場合、都道府県が許可したと畜場でなければ生産者自らと畜処理を行うことができません。多くの酪農の場合も、乳牛から搾った生乳を乳業工場で殺菌処理しなければ消費者に販売することができません。と畜場や工場施設が被災して稼働できないとなると、農家はいくら生産しても出荷することができません。

非常事態が起きた場合を想定し、普段から地元の局地における小回りのきく流通ルートを確認しておくことや、被災から復旧までの見通しをある程度立てておくことが重要です。「災害時の流通における苦悩」「災害への備えと復興」について、流通のプロが解説します。ご取材希望の方は下記広報事務局までご連絡ください。



◆プロフィール

所属 : 農学部 食農ビジネス学科
職位 : 講師
学位・資格 : 博士 (農学)
研究分野 : 農業市場論、農畜産物流通論



戴 容秦思 講師

◆お話しできること

・能登半島地震で考えられる畜産業への影響

⇒能登半島地震では、先の見えない断水が続いています
考えられる畜産業への影響について解説します

・畜産物流通の特殊性 安全と安定供給を支える中間流通の重要性

⇒青果物と異なると畜や加工処理が必須とされる畜産物の流通上の特殊性
災害時の問題点や災害への備えと復興について解説します

本件に関わる内容を幅広くお話可能です。ご取材希望の方は下記広報事務局までご連絡ください。

※できる限り調整をさせていただきますが、取材のタイミングによってはお受けできない可能性もある旨ご了承ください。

東日本大震災に学ぶ！畜産業復興の動き

東北農政局の調査によると、東日本大震災では青森県・岩手県・宮城県の3件において、生乳廃棄が13,866t、乳用牛が187頭、肉用牛が458頭亡くなってしまうなど、畜産業は大きな被害を受けました。

震災後には、肉用牛肥育経営緊急支援事業がうたれ、出荷計画に基づく全頭検査・全戸検査実施県の肥育農家に対し、「飼育するすべての肥育牛×1頭あたり5万円の支援」や、生産者間での融通や地域内での需給調整がなされるなど、政府でも復興に向けた動きが活発に行われました。このような過去の事例を参考にして、災害が起こった際にどのように畜産業を復興させていくのか、想定しておくことも重要です。

○ 青森県、岩手県、宮城県の3県における畜産関係被害状況（6月23日までの報告分、福島県は調査中）

	家畜被害（頭・羽）			飼養頭羽数 b （被害割合 a/b）	施設被害（棟・基・式）〔※〕			生乳廃棄（t）	その他
	a	水死 〔津波〕	圧死・餓死・凍死		全壊	半壊	一部損壊		
乳用牛	187	171	16	85,900 (0.2%)	9 畜舎2、 農具庫1		畜舎等6	13,866	
肉用牛	458	446	12	271,400 (0.2%)	10 畜舎2、 農具庫1 飼料タナ2	畜舎等2	飼料タナ3		
牛 （乳用牛か 肉用牛かは 不明）	17	0	17	-	0				
養豚	5,850	4,037	1,813	1,065,000 (0.5%)	22 畜舎7、飼料タナ2 給水施設等2、 畜舎等9	畜舎1	畜舎1		
養鶏 （採卵鶏及びブロイラー）	4,548,955	174,800	4,374,155	39,611,000 (11.5%)	32 畜舎3		畜舎23、ケージ倒壊 4、飼料タナ等2		卵廃棄40t
畜種 不明					93 畜舎57、畜舎1、 飼料貯蔵庫1、 たい肥センター1		畜舎等12、 粗飼料貯蔵庫等6、 食肉処理施設3、 たい肥センター10、 家畜市場等2		
被害計	4,555,467	179,454	4,376,013		166	91	3	72	

出典：東北農政局調べ

飼養頭羽数については「畜産統計」（乳用牛・肉用牛：平成22年2月1日現在、養豚・採卵鶏：平成21年2月1日現在）、
「食肉流通統計」（ブロイラー：平成21年2月1日現在）

※ 施設被害で四角で囲ったものは津波によるもの